



### 協力隊に応募したきっかけ

全国で唯一、長岡市が募集していた「長岡市×長岡造形大学イノベーター育成プログラム（通称：いのプロ）」の半学半域型・地域おこし協力隊制度に魅力を感じ、応募を決めました。地域で活動しながら、大学院生として研究にも取り組むという二つの役割を持って地域に入り込み、実践と探究を往復できる環境に大きな価値を感じたためです。大学・大学院で学んだことを地域で活かしながら、指導教員と相談しつつ活動を進めていける安心感もあり、この制度なら自分の力をより良い形で発揮できると考えました。

### 今後の抱負・任期後の目標

これまでの協力隊での活動を通して多くのワークショップを実践してきた経験を生かし、今後は、自らの過去を振り返り、言葉にして整理できる機会や場づくりにさらに取り組んでいきたいと考えています。ワークショップの開催を通して、自分自身や身近な環境について考えるきっかけを提供していきたいです。

### 活動内容

#### ●自主企画ワークショップ、高校生に向けたワークショップ

活動1-2年目は、いのプロ生として、長岡市内の若者の自己受容感を高めることを目的に、過去を振り返り語ることで今より少し前向きになれる“対話型・自己内省ワークショップ”を設計・実施してきました。対象は若者を中心に、10代から50代まで幅広い年代の長岡市民に参加いただいています。また、長岡向陵高校の探究学習では、有志生徒を「自分史コーディネーター」として育成し、生徒同士でワークショップを実施できるよう授業設計や実施サポートを行いました。高校生が自らの価値観やアイデンティティを言語化し、市内に継続的な学びとして根付かせていくことを目指した取り組みです。



#### ●市内学生と市内企業との接点づくり

活動3年目は、NaDeCコーディネーターとして、ミライエ長岡5階のNaDeC BASEの活用促進や場所の周知のきっかけづくりに取り組み、市内の学生と企業がつながるきっかけを生み出すためのワークショップやセミナーを企画しました。「他者理解を育む ききがきワークショップ」では、長岡造形大学の板垣先生・ゼミ生と連携し、NaDeC事業として実施しました。市内企業の協力のもと、学生が「聞き書き」という対一のインタビュー手法を用いて企業で働く方の生き方や価値観を深く聞き取り、冊子としてまとめる取り組みです。学生にとっては、市内企業を知り、働く人に直接触れる貴重な機会となり、企業との自然な接点づくりにつながりました。15社に協力いただき、15冊の冊子が完成しました（2024年度は12社・14名）。また、「魅力を見つけるセミナー」では、商工部の地域おこし協力隊と協働し、企業と学生がそれぞれの魅力を再発見し言語化する場を外部講師を巻き込み、企画しました。企業説明会や形式的なマッチングではなく、互いをフラットに捉えた関係性づくりを重視し、学生から見た企業の魅力、企業から見た学生の魅力を伝え合う機会も設けました。採用を目的としない、より自然な企業と学生の接点づくりにつながりました。



#### ●前向きになれる場づくり

活動2～3年目には、長岡市内で学校に通いづらさを抱える中学生が集う市営の「ほっとルーム」と連携し、ミライエ長岡で安心して過ごせる居場所づくりに取り組み、毎月1回の活動が続けてきました。ミライエ長岡で開催することには、安心して訪れられる場所を増やす意図もあります。本企画では、子どもたちがそれぞれの得意なことや好きなこと（絵を描く・本を読むなど）をしながら過ごせるゆったりとした場をつくり、何気ない会話の中で「やってみたいこと」や「不安に思っていること」を自然に話せる環境づくりに取り組んできました。また、希望する子どもには、過去を振り返り自分の歩みを一冊の冊子にまとめるワークショップも実施しました。経験や気持ちを整理し、言葉にしていく過程を通して気持ちが前向きになり、なかには再び学校に通い始めるきっかけとなった子どももいました。この取り組みが、長岡市の子どもたちにとって安心して自分を語れる前向きになれる居場所となることを目指しています。



### SNS等

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
(instagram) <https://www.instagram.com/karin.matsue/>